

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P. 1 総会、記念講演/P. 2 生活部会/P. 3 自然観察会/P. 4 緑のカーテン/P. 5 エコツアー、環境とわたし/P. 6 インタビュー、環境クイズ/P. 7 環境政策室/P. 8 今後のスケジュール

2008年(平成20年)秋号 NO. 24 (通巻第42号)

和田武さんの
記念講演

地球温暖化の今 世界と日本の対応

6月20日13時30分から、とよなか市民環境会議とNPO法人アジェンダ21の合同総会を豊中市立市民会館で開きました。会議に先立っての立命館大学元教授和田武さんの記念講演は、昨年のIPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告を踏まえ、地球環境について最新の情報による決意のこもった厳しい話でした。

厳しさが受け止められていない

昨年発表された国連の研究機関IPCCの報告は、その内容において最も厳しいものだったので、世界的にも政治に影響をもつ結果となりました。ただし、その重要性が十分に受け止められたとはいいがたいところもあります。

今解っているのは、◇最近気温上昇や影響が急速に強まっている ◇温暖化による未来の被害額は、防止対策費よりもはるかに大きい ◇早急に積極的に取り組むほど防止対策費も被害も少なくできる ◇今後の気温上昇をできる限り低くするのが望ましい、などです。

そんな中で破滅的未来を回避するためには、大気中の二酸化炭素濃度を450ppm以下に安定化させるか、もしくは470ppmのピーク後400ppmで安定化させることです。その前提に立ち、2050年までに日本など先進国は60~80%の二酸化炭素排出量の削減が必要ながはっきりと謳われています。

なぜCO₂削減が進まないのか

日本でなぜ温室効果ガスの削減が進まないのか？現象的には、◇石炭火力発電が大幅増加している反面、原発拡大路線にもかかわらず稼働率は低下、◇自然エネルギー普及の立ち遅れと、省エネやエネルギー効率改善の停滞などがあげられていました。

政策面では、◇中長期の大幅削減目標が立てられていない(豊中市では「地球温暖化防止地域計画——チャレンジマイナス70プラン」を策定している) ◇環

境税を導入していない ◇排出権取引制度(部門別、企業別の義務目標)がない、などがあげられていました。

日本では、再生可能エネルギー発電の伸び率が非常に低いことがグラフで示されます。自然エネルギー電力買い取り補償制度、つまり電力会社に年度毎の新エネルギー導入目標達成を義務付ける制度を決めている国もあり、ドイツは12%、英国は10%と制度化することで軒並み自然エネルギーの発電量が增大していました。

写し出されたグラフによると、再生可能エネルギーの発電量伸び率が、日本では1%に満たない量でしたが、例えばドイツは7%以上、目立っていたのはオランダやデンマークが15%から16%に達しているという現実でした。

という現実でした。

がんばっている日本の市民共同発電

そんな中でも、日本の市民共同発電所の設置数は、2000年の30基ほどから、2006年7月は71団体185基へと、がんばっています。

太陽光発電の年間導入量と累積容量で、日本はドイツに追い抜かれたことが新聞記事にもなりましたが、これからは学校などでの省エネ推進と自然エネルギー普及を統合した取り組みなどが提案されていました。そんな事例の説明とともに、最後の言葉、子どもや孫、未来世代のために“Think of the future, act now”「未来のことを考え、いま行動しよう」が結びのスローガンとして呼びかけられました。(奥野)



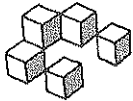
NPO法人アジェンダ21 2008年度総会開く

NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の2008年度総会は6月20日15時20分から開会。出席者は会員177人中66人、委任状提出者が70人、併せて136人で総会が成立していることを宣言。議長に柳澤俊治さんを選出し、議事に入りました。新しい運動の展開として、次の諸点がありました。

事業計画では「地球温暖化対策推進のための仕組

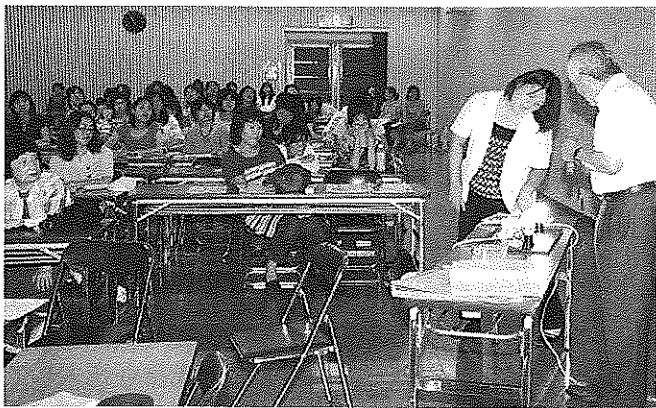
みづくり」事業が新しいプロジェクトとして動き出したこと。これまで「産業部会」と呼んでいた名称を「事業部会」に改め、態勢も新たに運動に取り組む決意が示されたことが注目されます。

役員の改選期でもあり、佐々木忠弘さん(自然部会)、松井清武さん(事業部会)の二人を新たに理事に迎えました。(松井さんのインタビュー記事が6ページにあります) (奥野)



生活部会

出前学習 地球温暖化と省エネの暮らし



「地球温暖化と省エネの暮らし」と題した出前学習会を7月8日青年の家いぶきでおこないました。

10時、集まったのは市立幼稚園PTAの130人。その日はちょうど洞爺湖サミットが開かれている真っ最中でもあり、地球温暖化防止が待たなしの状況になっているのに、国々の足並みが揃いそうにもないことなど、前座として奥野が話を始めました。

DVDで「地球温暖化の仕組み」を宮田さんがスクリーンに映して説明したあと、講座の中心テーマでもある「省エネの暮らし」について新開さんの具体的な話が進められます。

「かんたんにすぐ出来て、しかもお得な省エネのポイント」では、冷蔵庫の扉の開閉をできるだけ少なくすることから始まり、「冷暖気は窓からが一番よく逃げます。カーテン1枚でも日差しをカットします」と話し、表面温度計で会議をしている部屋のカーテンの温度と窓ガラスに模造紙を張っただけの表面温度とを計ります。そんなかんたんなことで1度の温度差があることには皆も驚きでした。

また最近では、電球型の蛍光灯がかなり出回ってき

ています。同じ明るさでも消費電力は3分の1です。電球の寿命も従来の白熱灯よりはずっと長くなっています、とこれもかんたんな電力計で2つ並べた電球の使用電気を計測し、見てもらいました。

車の省エネについて宮田さんが説明、最後に今井さんがエコライフカレンダー(環境家計簿)について説明し、協力をお願いしました。(奥野)

新聞紙でカラフルなコサージュ作り

今年度から新企画「ものの命を大切に」と考えた「楽しい手作り講習会」を2カ月に一回開催しています。講師の優しい指導を得て会場はなごやかな雰囲気です。一回目の6月にはトンボ玉やビーズをアレンジした眼鏡ホルダーの作成。家に眠っていた材料に一手間かけただけで、新しい姿によみがえり、愛用の品にリストアップ。8月には新聞紙のカラー部分を

うまく使ったコサージュ作り。ラメの入ったマニキュアとビーズで化粧した花は、紙とは思えない程

艶やかで素敵な作品になり、参加者の胸元を飾り記念撮影に収まりました。次回10月は芸術の秋にふさわしく、ミニ額縁のトールペイントを計画。そこでもどんな笑顔とお喋りと交流が生まれるかと、企画する楽しみも味わっています。(新開悦子)



大人気のコサージュ作り



自然部会

夏の水生生物観察会 ～箕面川で水の生き物いっぱい見つけよう～

7月19日、夏恒例の水生生物観察会を箕面川で催しました。参加者76名。

箕面駅前での集合時9時30分は、もううだるような暑さ。やれやれ、この調子では目的地（瀧安寺上流）に着くまでにへばってしまいそう。けれども箕面川に沿って歩くようになると、山からせり出した樹木の木陰と川の水のおかげで、ずいぶん涼しく感じられました。都市のヒートアイランド現象が、緑陰と水分の不足にも要因があることがよくわかります。途中、深い淵にいるカワムツやコイの姿を覗きながら、目的地に到着。



講師の河野さんから川や生き物の説明や注意事項を聞き、私が採集方法のアドバイスをした後、いよいよ

観察と採集です。さすがに溪流箕面川、千里川と違って冷たい(水温21℃)！網とトレイ、バケツなどを持って採集するのですが、魚はすばしっこくてなかなか捕まりません。それでも、石の裏や岸辺の植物の根際などを探ると、小さな生き物が色々見つかります。1時間ほどの採集の結果、カワムツやカワヨシノボリなどの魚やカゲロウ類、カワゲラ類、ヨコエビ、サワガニなど溪流性のものを中心に、当初思っていたより多くの種類と数が集まりました。カジカガエルもつかまりました。

けが人もなく、無事に終わることができてほっとしましたが、子どもより夢中になっているお父さんも多かったのが印象的でした。(柿本修一)

上野坂ビオトープ観察会

上野坂2丁目第四公園ビオトープは、平成18年3月に初めて植付を行いました。木本・草本類は上野丘自治会の皆様、自然部会の会員と市公園みどり推進課の協力により100を越える植物を集めました。初めての夏場は灌水をこまめにして乗り切り、約90%が根付いてくれました。現在では150を越える植物が育っており、地元の方に親しみを持って見守られております。しかしながら元の現地に生育していた植物ではありません。開発前の希少な植物は移植し、元の環境に近い現場を再現しここに戻すべきですが、失われた環境も生物も再生不可能なことを忘れないことです。



野草は子孫を残すために勢力を広げ繁茂し弱いものを駆逐していきます。そのためここでは常に観察バランスよく間引く作業は欠かせず、人工的に創られた環境の宿命と受け止めています。

今年の6月21日に見学会を開きました。15名の方にご参加頂き前回の記録を元に岡さんが陸性植物を、柿本さんが水中植物と水生昆虫等の調査をされました。

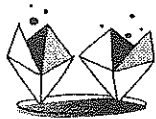
現在写真も取り貯めており、資料の整理をしてまとめたいと考えています。2年半が経過し現地にとけ込んで、徐々に良い雰囲気醸成されてきました。野草は四季折々に小さな花を咲かせています。この小さなビオトープのお世話をし、育成環境を長く持続できるように努めたいと考えています。みなさまの熱意によりここまで育ったことを感謝いたします。

(藪本圭一)

希少植物調査・とよなか —レッドデータブックが完成

2002年から2007年にわたる6年間の実地調査を経て、豊中版レッドデータブックが完成しました。危機的な状況にある豊中の自然を、かけがえのない財産として保存するために、この冊子を活用していただきたいと考えています。市内で見られる全616種の植物とその生育地をカラー地図や表でわかりやすく学ぶことができます。 1部100円 アジェンダ事務局まで。





花と緑のネットワークとよなか

ゴーヤで緑のカーテンづくりに挑戦

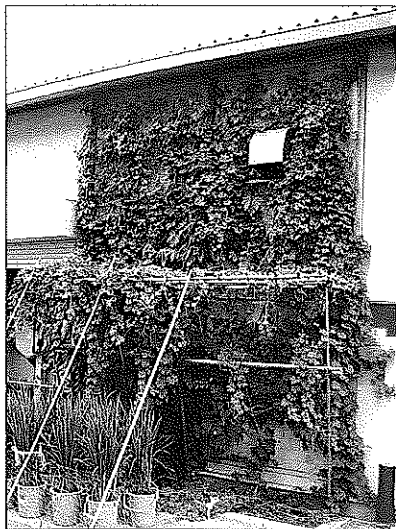
温暖化防止と健康料理の一石二鳥

現在、約120人（1人3株）の方と団体などで「緑のカーテン（ゴーヤネットワーク）」の活動を進めています。これは昨年の試行の結果を踏まえたもので、ゴーヤを育てることを通じ、身近な温暖化対策の役割を発揮するとともに、ゴーヤ料理を味わいながら、夏バテを解消していただくという取り組みです。

4、5月頃に「とよっぴー農園」でゴーヤを種から育てたものや、花とみどりの相談所や大阪府から提供

を受けた苗を、活動に参加した個人や団体に配布、それぞれが工夫して家屋の軒先や施設の壁面などで育てています。

大阪では、この100年間で全国平均の1.0℃に比べ2.1℃も気温（出典：大阪府資料）が上昇しているそうで、今夏も猛暑の連続です。



緑と食品のリサイクルプラザ

都市化に伴うヒートアイランドも大きな要因ですが、少しの努力で温暖化対策も可能か、ゴーヤを育てる実際の経験の中から学びとっていただく機会にしています。

参加した関係者には、9月下旬を目標に取り組み結果をご報告いただく調査の実施を予定しています。早々と感想を寄せていただいた方もおられ、体感温度では「やや涼しくなった」とか、栽培した感想では「株がどんどん増え、涼しく感じられ、みるみるうちに丈が伸びびっくりした。横に伸びるようにすることが必要だった」という声が届いています。この方はマンションでの挑戦ですが、いろいろな場所や建物で取り組まれており、大きな成果が期待されます。

なお、最初に種を約600粒育てましたが、気温が低かったことから生育が全滅したこともあり、担当者は大変。勉強になるおまけもありました。調査結果は機会があれば後日、掲載します。（中村義世）

★ゴーヤの佃煮★

種とワタを除き半月切りにしたゴーヤ 300gに塩をふり10分おいて、軽くもんで水で洗う。鍋に、みりん50g、砂糖30g、酢50g、しょう油50gを煮立て、ゴーヤを入れて煮る。煮詰まったら、ごま大さじ2、かつお節1パックを入れて混ぜればでき上がり！



とよっぴーと食育

2005年6月に食育基本法が成立し、豊中市でも今年3月に食育基本計画が作成されました。

花と緑のネットワークは、土壌改良材「とよっぴー」が、学校給食センターの調理くずと児童の食べ残しが材料であることから、『食べ物のごみから地球規模の食』と同時に『地産地消・食の循環』について子ども達に考え学んでもらう啓発事業を行っています。

2005年からは、堆肥化施設のある豊中市苗圃の1角（約800㎡）を一定期間借用し、堆肥を使った環境保全型農園「とよっぴー農園」として地元の保育園児や小学生達と身近な野菜を育てる農体験事業活動を行っています。今年度農園には、4月から8月まで14回、じゃがいも・かぼちゃ・枝豆・さつまいも・米（ミニミニ田んぼ・バケツ米作り）・玉ねぎ栽培などに、のべ約650人の幼児や保護者が参加しました。

植え付けと収穫など2・3回程度しか来てもらえませんが、貴重な体験が出来た、野菜が好きになったと毎回好評で、ボランティアで日常の手入れを行っている担当者の励みになっています。

また、昨年から小学校へ出向いての学校菜園づくり支援活動は、原田・少路・北丘・西丘・豊島北・豊島西・庄内・桜塚などを対象に、土づくりや植え付け作業など側面からお手伝いをしていますが、お米づくりや生ごみリサイクルについて、教室でも学習講座等の開催（6校1100人）に発展しています。

今後は、紙芝居や食育クイズなど年齢に合った環境教育プログラムを充実させて、一人ひとりが自分の食や身体について関心を持ち、「食」を選ぶ力が育まれるような事業にしていきたいと思っています。

（高島邦子）



子どもたちがFM放送局と千里公民館でコラボ

●マイクの前でエコメッセージ●

休み恒例の「親子エコツアー」。7月21日、親子6組が、日頃から環境に関する情報をオンエアされているFM千里(83.7Mhz)を見学。

集合時から、子どもたちは「放送クラブに入っている」「学校の授業で街のお店に行ってレポートしたこともある」などと話が盛り上がり、放送局に着けば、ラジオをイヤホンで聞きながら生放送中のスタジオを覗く子、展示してある蓄音機を「何か」と親に尋ねる子もいました。

コミュニティFMについてお話を聞いた後、実際に子どもたちがスタジオに入り「エコメッセージ」を収録・発信するという機会をいただきました。衣・食・住のエコライフを提案する素敵な原稿を、マイクの前でリハーサルから本番へと見事に読みこなす子どもたち。大人たちをうならせました。当日集めたエコ川柳も電波にのりました。

●“シュッシュクーラー”に注文続出●

移動中は暑さ対策と熱中症予防に霧吹きでの涼感体験をしました。実際はかなり涼しくなることから、参加者の列の前から後ろから、「シュッシュしてください〜」と霧吹きを持つスタッフは何度も呼ばれ大忙し

でした。また、千里の竹林も通り抜け、緑織りなす吹き抜けを見上げ涼みました。



スタジオからメッセージを発信

●親子どうしがコラボして発表●

後半は千里公民館の講座室で環境科学実験とワークショップです。「環境について放送番組風にわかりやすく伝える」ために、原稿に何度も手を加える過程(写真)や、人形劇風に親子で工夫してレポートする姿、元気に声を出して解説する姿がありました。発表時はマイクやカメラ係なども分担し、3つのチームそれぞれにメンバーの交流が深まりました。

(大和敬吉)

環境とわたし

⑱

木村文康さん 自然部会 竹炭プロジェクト



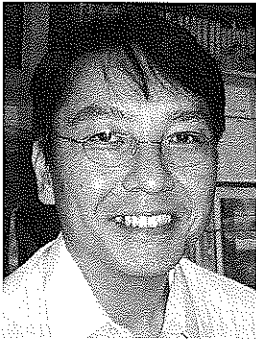
会社を退職し半年を過ぎた頃、市の広報に千里中央公園の竹切り体験の項が目止まり一度経験してみようと参加したのが始まりで、アジェンダ21の活動の仲間入りをさせてもらいました。早いものでもう2年半、竹切りと竹林整備、竹炭作り、公園掃除等だけでなく環境展準備の応援など、貴重な経験をさせてもらい、環境に対する私の考え方が少し変化した様に思います。

今の時代はお金を出せば何でもすぐ手にはいる。化石燃料を多大に使って出来上がった携帯にしてもすぐ新しい物が出ると古いのをポイ捨て。物の少なかった時代の私には考えられないことです。ペットボトルのリサイクルにしても、昔は油、醤油等はビ

ンを持って買いに行っていました。そのビンの替りにならないだろうか…。

複雑な経済社会だろうけど、消費する経済発展からリサイクルする再利用経済発展社会へ、なるかどうかは別として理想としたいものですネ。

環境破壊しない自然エネルギー開発(高効率の太陽光発電等)が出来るまでは、必要度が低いエネルギー使用を削減し、一人一人が多少の不便さに慣れていかなければならないと思いました。将来の子供たちのためにも…。



6月20日の総会で、アジェンダ21の理事に選出した松井清武さんを大阪北生活協同組合本部に訪ねしました。名刺には「組合員活動部」と書かれています。やはり生活協同組合ならではのポストです。

「生協では、組合員の活動として商品・福祉・環境の活動があります」とか。「でも、今や生協の運動も急激な変化の中に立たされています。たとえば店舗販売だけでなく、地域での協同購入の運動がかつては大きな部分を占めていました。ところが最近は個人宅配の比重が急速に拡大しています」「個人宅配が60%になっています」と。そんな事情を聞くと、共働きなどシビアな社会の姿が見えてくるようです。

——ところで、環境担当としての活動は？

「IPCCの第4次報告書に基づき『くらしの中からSTOP温暖化』のパンフが日本生協連から送られています。それを指針にして『くらしの見直し、1日エコライフチャレンジシート』がつくられ、10項目にわたって何をすれば1日にどれくらいのCO₂を減らすことができるか、という運動です。

大阪北生協では、このチャレンジに、今のところ4,615人の組合員が参加（取材した7月中ごろ）、去年よりは上回っていますが、8月末を目標にまだまだ頑張りたいと思っています。また、このチャレンジに

ついては参加者1人につき、10円を緑の募金に寄贈することになっています」

——中国からの輸入食品で問題があったりしましたが、それらの事件と生協の環境活動は？

「安全・安心が第一です。とうぜん検査体制の強化が議論になります。現在では組合員の皆さまの信頼を1日も早く取りもどすよう「品質保証強化プロジェクト」を立ち上げ、商品の点検強化に取り組んでいます。

最後にアジェンダの皆さんへ決意と意見を一言。

「アジェンダ21の理事にお声をかけていただきありがとうございます。ひとつでも活動のプラスになればと思っています。地球温暖化が問題と言われる異常気象など身近に感じると「今やらなければ」と思い、エアコンの温度やエコドライブに気を付けています。「MOTTAINAI」で有名なマータイ博士が「未来は、ずっと先にあるわけではありません。『未来』は、『今』にあるのです。将来、実現したい何かがあるなら、今、そのために行動しなければなりません」と言われた言葉が好きです。今できることを大切にしたいと思います」（奥野）

環境クイズ

豊中における希少植物について自然部会がとりまとめた「レッドデータブック豊中」で「要保護B」に選定された植物は次のうちどれでしょうか？

- ① オオイヌノフグリ ② ヨゴレネコノメ
③ オカトラノオ （こたえは8ページ）



地球温暖化対策プロジェクトはじめました

5月27日の理事会にて、「地球温暖化対策プロジェクト」の設置が承認され、アジェンダとして4つ目のプロジェクトが誕生しました。

今年4月、豊中市が提案公募型委託制度により「地球温暖化対策推進のための仕組みづくり」事業を公募しました。この事業は、豊中市が昨年策定した「豊中市地球温暖化防止地域計画」に基づいて温室効果ガスを削減するため、今年度は「省エネ機器、省エネ住宅への取組み等に対する支援システム」と「地球温暖化防止エコポイント制度」についての仕組みづくりを、豊中市と協働で行うというものです。

アジェンダではこれまでの取組みの成果や市内の現状を踏まえて事業に応募し、その結果、事業を受託することになりました。「地球温暖化」問題はすべての

環境問題に関わることであるから、既存の部会・プロジェクトで対応するのではなく、各部会・プロジェクトを横断するような地球温暖化対策プロジェクトを作り、このプロジェクトが事業を担当することとしました。

地球温暖化対策プロジェクトでは事業を実施するため、新たに事務局に有給の専従職員（廣田学）を配置し、7月9日に最初の学習会を行いました。

プロジェクトでは、仕組みに関する検討や情報収集、12月の環境展でテストケースの実施などを行っていきます。

まだ動き出したところですが、プロジェクトメンバーは随時募集していますので、関心のある方は事務局へお問合せください。（廣田学）

とよなかエコ市民賞 2008

環境活動団体を募集します

応募期間：平成20年(2008年)8月1日(金)～9月30日(火) (消印有効)

? とよなかエコ市民賞って何？

とよなかエコ市民賞は、市内で環境負荷の低減や、自然との共生、快適環境の創造などに取り組んでおり、継続した活動実績があるか、特に顕著な功績が認められる団体を、「とよなか市民環境会議」(会長：浅利敬一郎豊中市長、148団体)が表彰し、市民の環境活動の輪を広げようというものです。

? 表彰されるのは、どんな団体？

市内で下記のような環境活動を行っているグループや団体、事業者、学校、施設などおおむね5団体を表彰します。

- 循環型社会形成につながる取組み
- 省エネルギーの推進
- 温暖化防止につながる取組み
- 自然環境の保全にかかわる取組み
- その他環境にかかわる取組み

【応募資格】

下記の(1)か(2)のどちらかの要件を満たす団体。

(1) 環境報告書「とよなかの環境I」に活動実績が掲載されている団体。

(2) 一定期間の活動実績(下表)があり、将来にわたり継続する見込みがある団体。「とよなか市民環境会議」構成団体の推薦が必要です。

・活動実績年数

活動の頻度	継続年数
毎日の活動	1年以上
毎週の活動	2年以上
毎月の活動	3年以上
毎年の活動	5年以上

※なお、上表の年数を満たしていない場合であっても、その活動が特に顕著で多大な成果があると認められる場合は、この限りではありません。

? いつ、どうやって表彰されるの？

とよなか市民環境会議役員会で選考し、平成21年(2009年)2月16日(月)に予定されている「ストップ地球温暖化デー」の催しで表彰します。

! よし! 応募しよう!

応募要領、応募用紙は、豊中市役所環境政策室にあります。また、豊中市のホームページからもダウンロードできます。

豊中市ホームページ:

<http://www.city.toyonaka.osaka.jp>

環境フォーラム2008「低炭素社会づくりをめざして～豊中のチャレンジ～」

と き：9月20日(土) 13:30～16:00

と ころ：とよなか男女共同参画推進センターすてっぴー ホール

入場無料!
一時保育あり
(有料・事前申込み)


【第1部】豊中の環境の現状報告「とよなかの環境I～2007年度活動実績～」より

【第2部】講演会「チャレンジマイナス70を実現するしくみとは～先進事例から学ぶ～」


主催：豊中市 共催：とよなか市民環境会議・NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21
問合せ・保育申込み先：豊中市役所 環境部環境政策室 TEL 06-6858-2127


とよなかの環境について、市民のみなさんとともに考えます。ぜひ、ご参加ください。


スケジュールのお知らせ


 秋の鳴く虫観察会
9月19日(金) 18時~20時
服部緑地東中央広場集合


 ふしぎ発見クラブ
9月27日(土) 10時~12時
「昆虫いっぱい見つけよう」千里中央公園


 とよっぴー祭り
10月18日(土) 11時~14時
緑と食品のリサイクルプラザ

 手作り講習会 トールペイントの写真立て
10月20日(月) 10時~12時
環境情報サロン

 ちょっといい豊中見つけにいいかウォーク
11月2日(日) 9時45分~13時
阪急石橋駅西口集合~阪大博物館~大学祭

 竹炭焼きと窯出し、竹切り(9月~11月)
毎月実施します 9時~12時
千里中央公園ほか 詳しくは事務局まで

 とよっぴー有料頒布(9月~11月)
第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ

 おもちゃ病院(10月、12月)
第2土曜日 10時~12時
(10月は環境情報サロン、12月は市民会館)

編集室から

▼ やっと涼しくなってきた。「風立ちぬ。いざ…」と粋がってみるが、今年は暑さにすっかりやられ、ばて気味のだからした日常がいまだに続いている。原稿の仕上げが遅れ、アンカーに苦勞をかけた。校正のときに読み直すと出来も悪い。また汗が出てきた。(Z)

▼ 赤坂下池にツバメのねぐら入りを見に行った。昨年の2倍に数が増え空が黒くなるほど集まった。池を旋回、ヨシに止まる、を繰り返してねぐら入りをする。1本のヨシに5羽以上。農業用水池で冬に池干。ヨシを刈り取るのでよく育っている。豊かな自然がここにも残っているのがうれしい。(H)

▼ 今年のお盆休みは何年か前に「くらしかん」で教わった傘の布で作るマイバック作りに挑戦。早い時期に骨が壊れて綺麗なまま残っていた傘の布でしたので、縫製の荒っぽさに目をつむれば(?)上々の出来、早速買い物に使っています。(Y)

▼ 地球温暖化実験教室のサポーターを担いました。対象は小学5~6年生約80名。温室効果ガスとは? そのガスを排出している国は? などの質問に正しく答えた生徒はかなりのいます。次代を担う子供たちが環境問題に関心を示したことを嬉しく思いました。(S)

市民の力で自然エネルギーを作り出す市民共同発電所「エコSUN市民発電」が環境情報サロンで順調に稼働中です。この設置には市民の皆さんから多くの寄付をいただきましたが、今後も引き続き2号機以降の設置に向けて寄付を募集しています。是非よろしくお願ひいたします。

▼ 北から豊中へ移動してくると、どんどん気温が上がってくる。8月のはじめ、雨雲の動きをチェックすると、集中豪雨の雲は豊中周辺をピンポイントで通っていた。暑い町を、地球が一瞬懸命冷やしてくれているのかなあ。(M)

▼ 自家用車だけではなく公共交通をもっと使ってもらえるよう、その一環として市内のバス停を調査しました。いろんなバス停があり、バス会社だけでなく、実はすぐ前の家やお店、地域の人などが使いやすいように様々な工夫をしていることがわかりました。(J)

▼ 家庭菜園に目覚め、ミニトマトとゴーヤを育てました。朝の収穫はワクワク楽しい。たくさん採れて美味しいうえに家計も助かる。こんなことなら小さな庭をウッドデッキにせず、ぜ〜んぶ野菜畑にすれば良かったなあ。(P)

環境クイズの答 ③のオカトラノオです。

日当たりの良い草地に生育する草ですが市内では北部の一部の草地でしかみられません。多くの白い小花をつけた様子が虎の尾のようになります。



《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、M大井、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp